平成28年度第2回印西市教育振興基本計画策定委員会　会議録

1．日　　時　　平成28年12月12日（月）午前10時～午前11時40分まで

2．場　　所　　印西市役所　41会議室

3．出席委員　　福留強委員（委員長）、青木和浩委員（副委員長）、岡敬一郎委員、篠原英光委員、

池亀節雄委員、桜井繁光委員、板倉三郎委員、西田裕子委員、五十嵐靖宏委員、

青柳豊子委員

4．欠席委員　　なし

5．事務局　　教育部山崎参事、教育総務課 髙橋副主幹

6．傍聴者　　2名

7．議　　事　　（1）印西市教育振興基本計画第1次素案について

（2）その他

8．議事録　　要点筆記

議事（1）

～事務局より（1）に関する資料を説明

委　員：前回、部活動に参加している中学生が少ないという意見を出した。学校では部活動をどう考えているのかを教えてほしい。

委　員：中学校の部活参加者は以前に比べると少なくなっており、生徒のスポーツへの関心は若干弱まっていると感じる。青年期の成長に部活動が有効であるという考えは、学校においても何ら変わることはないが、生徒自身の部活動への考え方や、家庭や生徒が勉強や進学を第一に考えるという面はある。一方で、指導者や学校規模などの問題で生徒の要望に沿った部活動ができないという面もある。学校では複数校での部活動などの工夫をしている。

委　員：社会体育的な部分はここ数年で変化しており、サッカーや野球では学校の部活動ではなく、地域のクラブなどに所属しているケースが多いことも影響している。

事務局：部活動の参加者が少ないという点は、スポーツ分野の課題として捉えていきたい。

委　員：部活動については、総合型地域スポーツでスポーツと学校教育をどのようにすみ分けていくかという論点になる。スポーツ分野では総合型地域スポーツクラブの中でこの課題に触れていくのが妥当だと考える。また、野球やサッカーなどのクラブチームについても触れる必要がある。

委員長：各会議での多くの意見がでており、それらが資料にまとめられている。これらの意見は、今後、計画に反映していくことになる。

委　員：計画は市民がわかりやすいように言葉の統一をお願いする。

事務局：今後、精査していく。

委　員：計画に記載する「施策の検証とこれからの課題」は評価数だけでは意味がなく、詳細に記載した方がよい。また、達成できなかった事業は平成30年度以降にやることになるのか。

委　員：総合型地域スポーツクラブなどは前年度を踏まえて30年度以降の計画に反映する。また、事業を詳細に記載するべきかについては委員会の意見を伺いたい。

委員長：評価に関しては様々な視点からみる必要がある。ここでは事業をやったことが評価の基準になっているが、学習評価（内容評価）でないと意味がない。しかし、計画に詳細を記載するのは難しい面もあるため、評価は大括りでもよいと思う。

委　員：事業はすべて公開しているため、できるだけ簡略化した方がよい。また、第1章は資料編に掲載し、計画として大事な基本方針と、計画の全体骨子がすぐに理解できるような構成がよい。

委　員：これからの計画には事業の点検評価が重要になり、これまでできなかったことは次年度以降に行うことが本来の姿である。文章を増やすのではなく、評価を行い、実行に向けて進めていくという考えを示さないと、市民として理解しがたいものとなる。

委員長：学習効果を第三者的に評価している自治体もある。事業をやっていないのではあれば、次にやらなければならないのは当然である。評価やアンケート結果からの課題を計画に反映し、かつ、毎年、しっかりと評価をしていくということだ。

委　員：計画したことができなければ、批判を受けるのは仕方ない。

委　員：事業に関してはきちんと評価することが重要であることを記載することはよい。

事務局：第1章は、基本方針につながりやすいよう、導入部を軽量化する形に改める。

委　員：計画の大きな目玉になっているリーディング施策は誰が、どのようにやるのか。

事務局：3つのリーディング施策を記載している。これらを誰が主体で、どのようにやっていくかは、これから具体的に詰めていく必要がある。また、分野別委員会からの提案も施策として検討していきたい。

現時点の考え方として、リーディング施策1の『循環型生涯学習を推進する「学びのコミュニティ形成事業」推進プロジェクト』は、「さわやかコミュニティ」を核に、生涯学習団体、スポーツ団体、文化芸術団体、人材バンクなどを集約して「学びのためのコミュニティ」を構築したい。その中で、学校教育や地域を結ぶための担い手となるコーディネーターが必要だが、具体的なことはこれからの課題になる。

リーディング施策2は「4分野の相乗的な効果を生むためのきらり輝く横断的連携事業推進プロジェクト」であり、各分野別を繋ぐことが重要と考えている。このための新規事業として、「学びのフォーラム」などに参加していただいた方に「学びマイレージ」としてポイントを与え、ある程度のポイントが貯まったら、特典として何らかの「学びのフォーラム」に参加していただくなど、循環プロジェクトをしていきたい。

リーディング施策3の『市民がいきいき暮らすための「それぞれの世代　に合った知・徳・体の三位一体教育」推進プロジェクト』は、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、大学などと連携して、健康指導、運動指導の連携方策を検討し、子どものためのプログラムを作成する。将来的には、乳幼児から高齢者まで生涯を通じた『生涯学習（学び）、筋力、食育（栄養・口腔力）』の三位一体型のプログラムを作成し、市全体のプロジェクトとして健康、体力・スポーツ能力の向上を図ることまでを進めたい。モデル的に子どもを中心として運動プログラムと栄養プログラムを組み立てて、学校教育の中でやっていくことを考えている。

委員長：リーディング施策1は公民館などを利用した学習、リーディング施策2は行政だけではなく、民間と協力しながら進行していくための連携、リーディング施策3はスポーツや健康、学校教育を視野に入れるなどがポイントになる。

計画の目玉となる3つのリーディング施策をどのように進めていくかは大変重要なことになる。教育委員会で行うか、特別に推進委員会を設置するか、公民館や図書館の重点施策として進めるかなど、リーディング施策の推進体制まで記載する必要がある。

委　員：リーディング施策は各分野が横断して実施していくということ。それには、学びのコーディネーターを常勤させ、各分野の橋渡しをすることも必要になる。

委　員：システムや組織の核になるのは人である。コーディネートができる人を配置することで事業が推進されていく。

委　員：どこがやるかも重要であり、「総合計画」と整合性をとる必要がある。コーディネーターがよいのか、新たな部署を設置するのがよいのか、生涯学習課で推進するのがよいのかなど、実際に誰がどのようにやるかを明確にし、施策に落とし込むことがよい。

委員長：生涯学習推進本部などを各自治体でつくっていた。どうやるのかが見えることも大事である。

委　員：コーディネーターが必要なのは言うまでもないが、それを誰がやるのか、支えていくのかまで決めないと実現は難しい。

事務局：リーディング施策は様々な視点から作り上げている最中であるので、今後、本委員会の意見を庁内で議論して、どうできるかを詰めいきたい。推進体制は、第4章「計画の推進」に記載している。アクションプランをつくり、このプランの中で何ができるのかを検討し、年度ごとの主な取り組みに反映させていく。

委　員：48頁で計画の具体的な方向性が理解できる。この内容を削除せずに、計画のどこかに記載してほしい。

委　員：各分野が連携するイメージがなかなか掴めてない。難しい面もあるが、新しいことはひとつひとつクリアしていくことが大事になる。

委員長：市内の団体がフォーラムで交流や連携をしているが、普段からの団体の交流はないと思う。

委　員：現状は活動しているサークルの拠点がない。活動している人たちが交流できる場所があるとよい。

委員長：計画では拠点などのハード面も入れた方がよい。必要としている場所がすぐに整備される訳ではないが、記載はしておくべきであろう。

委　員：潜在能力を持っている人たちが交流できる場があれば、印西市の横断施策も充実したものになる。ニュータウンがあり、郊外では農業もある幅の広さが印西市の特徴。アンケートの意見にもあったように、市民が持っているポテンシャルを引き出すことも位置付けることで計画にオリジナリティが出てくる。

委員長：リーディング施策に施設や指導者のことも記載するとよい。公共施設だけでなく、民間の店なども含めてやることも大事である。

委　員：「学びためのコミュニティ」のイメージがわかないので教えてほしい。

事務局：「さわやかコミュニティ」や「市民アカデミー」などがあるので、人材は確保できる。生涯学習、スポーツ、文化芸術などの団体は、活動や技能などを子どもに教えていきたいという意欲を持っている方もいる。学校の先生は忙しいため、地域がやろうとしていることに負担を感じている現状がある。

こうした現状を踏まえ、各分野の人材を集め、集まった人材を学校や地域に講師として派遣する。休暇、休日や放課後を利用して「学びのためのコミュニティ」の中で子どもと接し、子どもの居場所づくりや仲間づくりのサポートなどをしていただくようなイメージである。

委員長：酒々井町ではこうした取り組みを4年前からやっており、公園をつくる高齢者のグループ、道路に花を植えるグルーブ、子どもに紙芝居を見せるグループ、本の貸し出しをしているグループなど、いろいろな団体がある。それらの団体が集まって何かできるのではないかと提案した。

また、今年9月に「全国ＯＣサミットｉｎ鯖江」を行った。「ＯＣ」はおばちゃんカフェという意味。「全国ＯＣサミットｉｎ鯖江」では日本国憲法を大阪弁で書き換えた女性などがいて盛り上がった。おばちゃんは人やまちが困っているのを黙ってみていられない人という定義である。

「学びのコミュニティ」はこうした事例も参考にして、印西市ならではのものを記載していくことが必要になる。

委　員：仕組みをつくっていくのがプロジェクトだが、プロジェクトによって市民が何を得られるのかということがイメージできていない。例えば、注目度をあげたいのか、生涯学習の場の機会を増やしたいのか。また、スポーツをやっている人が文化芸術とふれあうことで何かを得たり、逆に文化芸術の人がスポーツで何かを得られたりなど、市民にどんなメリットがあるのかが見えるとわかりやすくなる。

委　員：生涯学習で何かをやっていくか。事業によって教育的な効果がどのようにあるのかが記載できると、わかりやすくなる。

委員長：本来の生涯学習は自己の自立的な啓発や生活の向上がテーマにあるが、生活の向上のためということが抜けていて、文化芸術だけに捉えられている。私は「生涯学習は儲けるためだ」と言い続けてきた。儲けるというのはお金だけではなく、シャッター通りをなくす工夫を商店の方がやるのが生涯学習であり、農家は一俵でもお米を多く作る工夫をすることが生涯学習である。このことを国も自治体も忘れている。

例えば、鹿児島県志布志の市公民館では13年間前から焼酎を製造・販売しているが、これがまさしく生涯学習である。文化芸術やスポーツだけではなく、「生涯学習は生活の向上のため」という趣旨をどこかに記載してほしい。

生涯学習の定義は、キャリア、ボランティア、まちづくりと3つだが、キャリアが公民館や社会教育で活かされていない。公民館で勉強して通訳になったという話は聞いたことがない。つまり、生涯学習で決定的に足りないのが学習成果の活用であり、学習成果の活用が記載されていることがとても大事である。

委　員：農家が年をとって空いている畑や田んぼを子どもたちが利用して高齢者とふれあう、高齢者から農業を学ぶということもあってよい。

委員長：先ほどの鹿児島県の志布志市では公民館で市民大学講座があり、普通の講座に加えてクラブ活動や市民大学院まである。高齢者が畑を耕し、焼酎を作り、自分たちで焼酎を発売し、空き店舗を活用して自分たちの店も持っている。学習成果をこうやって活用するとおもしろくなっていく。

より印西市らしい生涯学習にするため、高齢者、中高生、女性、子どもなどに向けて、生活の質を向上させていくといったイメージが伝わるとよい。

委　員：各ライフステージの生活の質の向上を目指していくというキャッチフレーズがあればよい。また、高齢者、中高生、女性、子どもなどに向けて、生活の質を向上させていくのが本来の生涯学習ということが計画にでてくればよい。

委　員：キャッチフレーズはとても大事なので、じっくり練った方がよい。

事務局：委員の意見をうかがいながら、具体的に市民に伝わる表現が必要だと反省した。計画が市民にどのようなメリットがあるかという点について、計画は長期的な3つのステップを記載している。市民が豊かな生活につながっていくというイメージであり、最終的に市独自の生涯学習の構築を目指している。

資格や認定制度などについても具体的なものが必要だと思っているが、この計画の中では具体的なことは記載せずに、実施計画などの事業をやっていく中で市民の要望に応えていきたいと考えていた。

委員長：「あなたにとってこうなります」ということを、少し匂わせることも必要であろう。

委　員：具体的なことは実施計画に落とし込めればよい。大事なことは「市民にこんなメリットがある」「事業をやることで、こんな成果が得られる」と提示すること。

他の自治体では外部識者が市民にヒアリングして事業を判断しているところもある。そこまでは難しいとしても、市民のメリットがわかるように記載されることが必要である。

委員長：ステップ3の「生涯学習社会の構築」に、学べる場所がいつでも、どこでも、誰でもあるということを記載しておくことも大事になる。また、生涯学習は、どこで学んでも正当に評価される、市内のどこでも学ぶ機会がたくさんある、学んだことが活用できるなど、適宜、例示なども入れながら、イメージがでてくればよい。

委　員：市民に期待感を持たせるために、計画にはある程度の具体性が必要である。

委員長：ワクワクするような新しい事業を記載すると新鮮味がでてくる。議題2「その他」は特にないようなので、以上で議事を終了する。委員の皆さまには協力を感謝する。

以上

平成２８年度第２回印西市教育振興基本計画策定委員会の会議録は、事実と相違ないことを

承認する。

　　　平成　　　年　　　月　　　日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印西市教育振興基本計画策定委員会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　委　員